

第3回 大和御所道路 (橿原北IC～橿原高田IC) 植栽検討委員会 (報告事項)

日時: 令和3年12月3日(金)

場所: 奈良国道事務所

報告事項 (2) アンケート調査結果の報告

問5 これから新たに整備する対象区間全体の植栽帯について、あなたが望ましいと思うイメージをお答えください。
あなたが望ましいと思うイメージを二つ選択し、()に○をご記入ください。

() イメージ①：対象区間全体で低木のみの開放的なイメージ



() イメージ②：対象区間全体で低木に一定間隔で少し背の高い樹木があるイメージ



() イメージ③：対象区間全体で低木主体に少し密に背の高い樹木があるイメージ



問6 これから新たに整備する対象区間全体の植栽帯について、あなたが望ましいと思うイメージをお答えください。
あなたが望ましいと思うイメージを二つ選択し、()に○をご記入ください。

() イメージ①：四季の変化が感じられる植栽帯



() イメージ②：一年を通して緑が感じられる植栽帯



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

アンケート調査の内容

①第2回までのワークショップでの意見交換内容

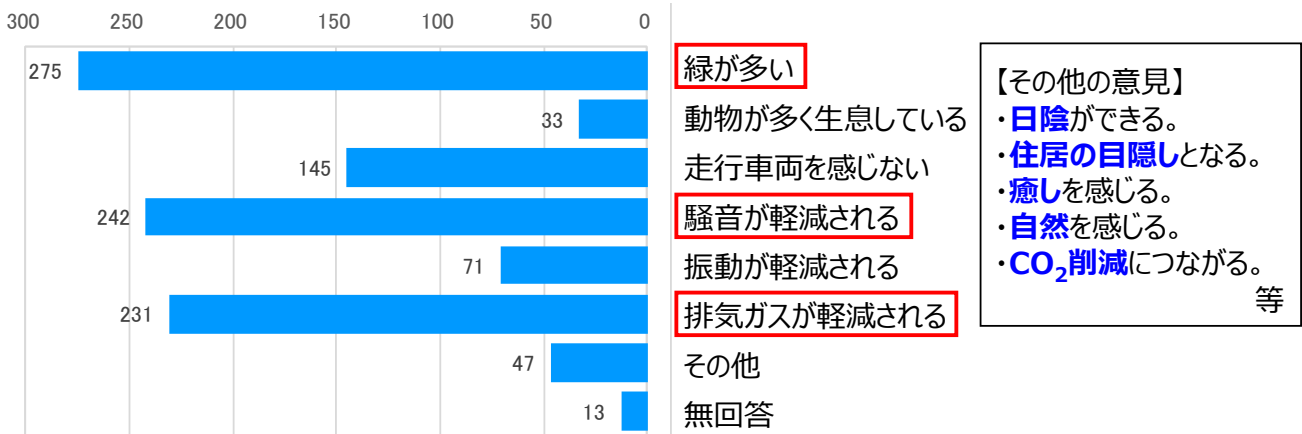
これまでのワークショップで意見交換したテーマ（**現況植栽の良い点、改善すべき点**）について、幅広い方からの意見を伺いました。

②新たな道路植栽の理想像

新たに整備する道路植栽に求める理想的な姿（役割）を把握しました。さらに、**配植イメージの異なる複数の植栽デザイン**を示すことで、沿道住民が考える**望ましい植栽のイメージ像**を把握しました。

調査結果（現況植栽帯の良い点）

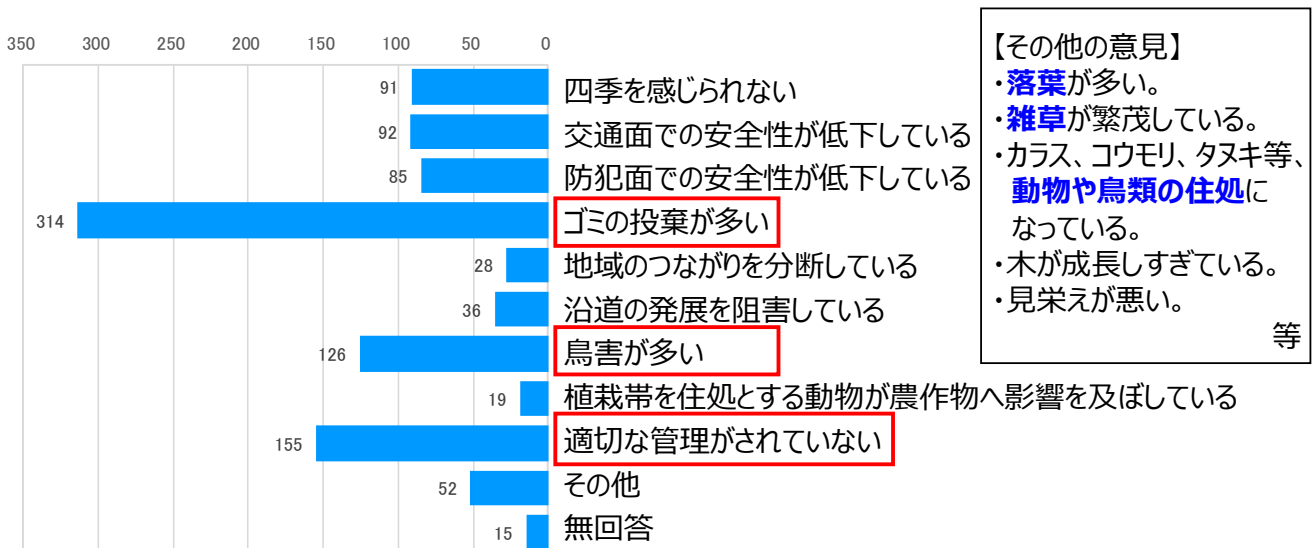
- 「**緑の多い**」点を良いと感じている意見が最も多かった。
- 「**排気ガスの軽減**」や「**騒音の軽減**」など、**生活環境の向上に寄与している点**を良いと感じている意見も多かった。



■ 良い点

調査結果（現況植栽帯の改善すべき点）

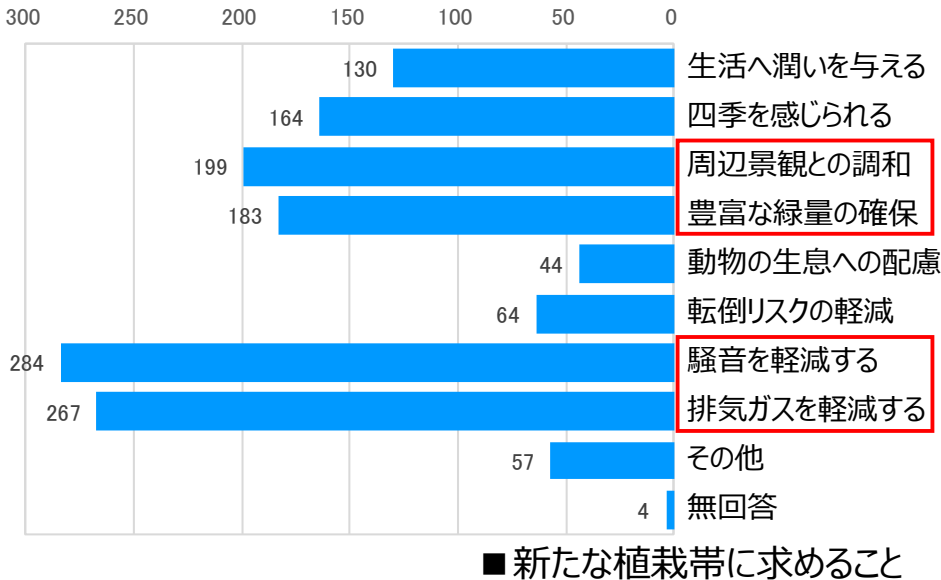
- 「**ゴミの投棄が多い**」ことを問題視する意見が突出して多かった。
- 「**管理不足**」や「**鳥害が多い**」点を問題とする意見も多かった。



■ 改善すべき点

調査結果（新たな植栽帯に対する意見）

- 沿道住民の多くは、新たな植栽帯に対しても、現況植栽帯で感じている**緑量の多さ**やそれに伴う**生活環境の保全に対する効果**を望んでいる。
- その他の意見の中には、新たな植栽帯に「**日陰の確保**」「**CO₂削減**」「**シンボルとなる樹木**」等を求める意見があった。
- その他の意見の中には、それぞれ全体の1%程度であるが、**現況植栽帯のような密度の高い植栽帯**を望む意見や**全く樹木を望まない**意見もあった。



【その他の意見】

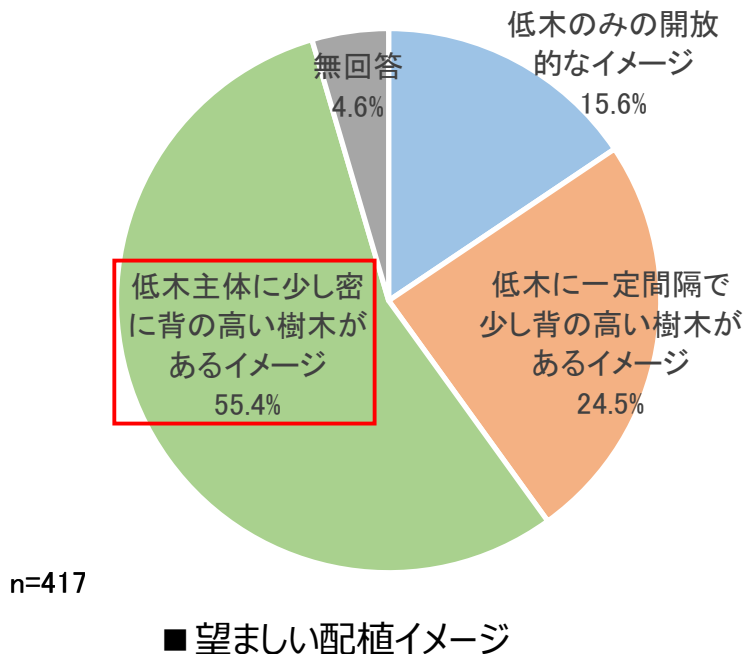
- ・日陰の確保。
- ・落葉が少ない常緑樹。
- ・大きくなりすぎない樹木。
- ・維持管理手間が少ない。
- ・交通面の安全性向上。
- ・防犯面の安全性向上。
- ・CO₂削減につながる。
- ・外来種や繁殖力の高い種を避ける。
- ・シンボルになるようなものを取り入れてほしい。
- ・植栽は不要（遮音壁）。
- ・現状に近いイメージ。

等

8

調査結果（配植イメージに対する意見）

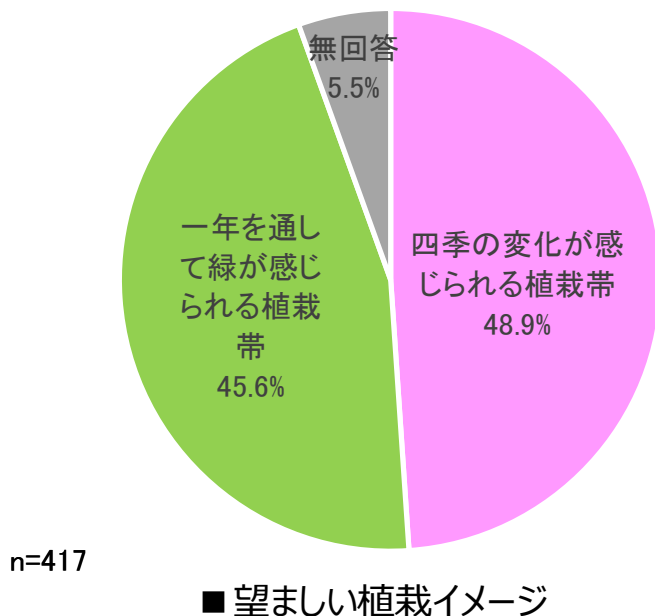
- 新たな植栽帯の望ましい姿は、**低木の中に背の高い樹木がやや密に植えられた配植**をイメージする意見が最も多かった。



9

調査結果（植栽のイメージに対する意見）

○四季の変化が感じられる植栽帯と一年を通じて緑が感じられる植栽帯は、それぞれ望む意見が同程度であり、どちらも**同等に求められている**。



報告事項（3） ワークショップ結果の報告

植栽検討ワークショップの概要

大和御所道路の植栽に関する近隣住民の意向を把握するため、全4回の予定で植栽検討ワークショップを開催しています。
10月に第3回を開催しました。

STEP 4

植栽整備基本方針(案)説明

令和4年1月頃開催予定

STEP 3

植栽整備の理想像

令和3年10月8日開催

STEP 2

植栽が担う新たな役割

令和3年3月25日開催

STEP 1

現況植栽の課題抽出

令和3年2月26日開催

12

第3回ワークショップの概要

- (1) 日時：令和3年10月8日（金）
- (2) 意見交換テーマ
 - ①新たに整備する植栽帯の理想像（望ましい配植イメージ）
 - ②植栽と地域のつながりの継承に向けた方策案
- (3) 参加者
各地区の自治会長等



ワークショップの様子

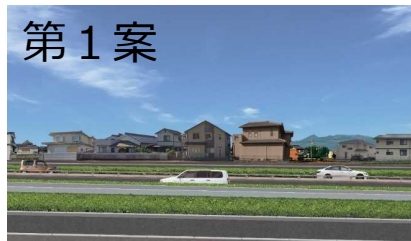
13

提示した新たな植栽帯の理想像の比較案

第1案

低木のみを配植し、周囲の山々を見渡す開放感と一体感を創出する清潔感あふれるみどりを形成

第1案



第2案

低木の中に中木を列植し、周囲の山々の見晴らしを確保した規則的でリズムカルなみどりを形成

第2案



第3案

低木の中に中高木をやや密に配植し、質の高い生活空間を創出するボリュームのあるみどりを形成

第3案



14

新たな植栽帯の理想像に関する主な意見

- 全体を通した方針は、**低木の中に中高木を植える第3案を基本とした配植**がよい。ただし、地域によって望む緑量等が異なるため、植える際には、**それぞれの沿道地域の要望に応じて配植**を決めてほしい。
- 低木を植栽帯全体に植える必要はない**ため、植える範囲を限定してもよい。
- ゴミの投棄が多くなり、見通しも悪くなるため、**交差点付近には樹木を植えない**でほしい。
- 用地制約により十分な植栽帯が確保できない場合に、自転車歩行者道を狭くしてまで植栽帯を整備する必要はない。**植栽よりも安全性を重視**してほしい。
- 維持管理面に十分に配慮**して植える樹種を決めてほしい。
- シンボルとなるような樹種**も植えてほしい。

15

ワークショップにて提示した地域とのつながりの継承に向けた検討方策イメージ

イメージ① 既存樹木の移植（小学校等）

現況植栽のうち、健全な樹木について、例えば小学校等の公共施設に移植する。

イメージ② 植栽整備時の植樹活動

現況植栽と同様に、新たな植栽を整備する際に、真菅小学校、真菅北小学校の児童や関係者に植樹をしてもらう。

イメージ③ 市民花壇の整備

区間内の住宅地に近い歩道沿いの植栽帯において、近隣住民が植栽の管理をする市民花壇を整備する。

イメージ④ 記念品の製作

対象区間内で伐採した樹木を活用し、真菅小学校と真菅北小学校の児童のための記念品を製作する。

16

資料 3

植栽と地域とのつながりの継承に関する主な意見

植栽と地域とのつながりの継承に向けた方策案のイメージを提示し、意見や要望を伺った。

- 新たな植栽を整備する際には、近隣小学校の児童だけでなく、地域の老人会やボランティア団体にも呼びかけをし、**多くの地域の人々に植樹活動に参加してもらう**とよい。
- 伐採する樹木を活用した**記念品の製作はよい**と思う。
- 市民花壇の実現には地域住民の協力が不可欠**である。継続的な維持管理ができなければ、逆に景観を悪化させ、イメージの低下につながるため、注意が必要である。
- 花壇を整備すると、花を抜いて帰る人がいるため、実現に向けては、**対策の検討が必要**である。

17

報告事項（４）

環境分野有識者ヒアリング 結果の報告

有識者ヒアリングの概要

（１）日時：令和３年１月４日（木）

（２）ヒアリング事項

- ①生態系ネットワークの観点から現況植栽帯が担ってきた役割
- ②生態系ネットワークの観点から新たな植栽整備において留意すべき事項

有識者からの主な意見

①生態系ネットワークの観点から現況植栽帯が担ってきた役割

- 現況植栽帯は、カシ類が非常に高密度に植えられた自然の森にはない暗い森になっている。**鳥や動物は、隠れやすい環境を好む**ため、この密植された環境を鳥や動物が住処にしている状況があるかもしれないが、そばを多くの車が走るこの環境を好んで生息しているとは考えにくい。
- 鳥や動物は、変化に柔軟に対応**するため、この植栽帯が住みにくくなれば、新たな住処に移り変わる。
- 生態系に関しては、植栽帯等の狭い範囲で議論するのではなく、**都市全体の広い範囲でとらえればよい。**

有識者からの主な意見

②生態系ネットワークの観点から新たな植栽整備において留意すべき事項

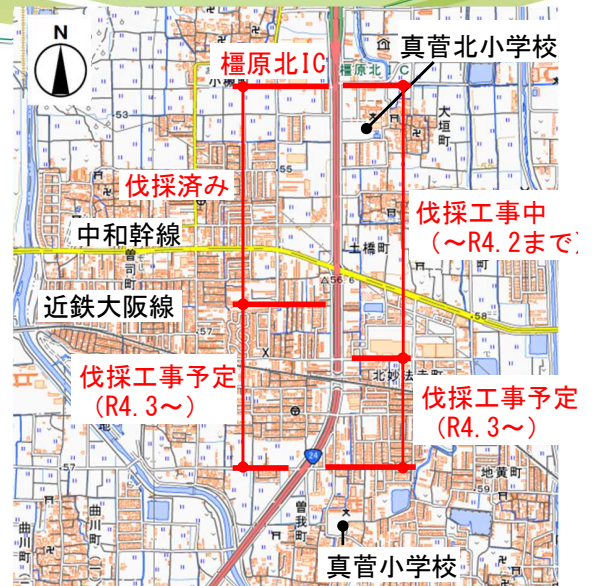
- 密植するのではなく、適切な維持管理を行いながら**風通しや見通しのよい植栽帯**を整備し、鳥や動物、そして、人々の生活にとっても良い環境を作るとよい。
- 10～20年先の自然の樹形の広がり**を見据えて検討すべき。
- 地域性、季節性、多様性**に配慮した配植が望ましい。
- ドライバーが走行中に**快適さ**を感じることも必要である。
- トウネズミモチ等の**外来種は用いるべきでない。**
- 春の花として「**ヤマザクラ**」、冬の花として「**サザンカ**」を植えるとよい。特に、周辺景観にも適する「ヤマザクラ」を**シンボルツリー**として植えると文化的、景観的な視点でよい。
- 奈良や大阪から吉野や明日香に向かう重要な道路であるため、**SDGsや生態系サービスを掲げる先進的な植栽帯として機能することが重要な視点**であると考えます。

報告事項（5） 現況植栽帯内樹木伐採状況 の報告

22

現況植栽帯伐採状況

今年8月より現況植栽帯内の樹木伐採を進めている。上り北側は伐採が完了し、下り北側の伐採を進めている。来年3月より、南側区間の伐採に着手する予定である。



出典：国土地理院ウェブサイト

伐採前



伐採後



伐採後設置フェンス



23